

時を越えた宝箱

# 船原古墳 遺物埋納坑



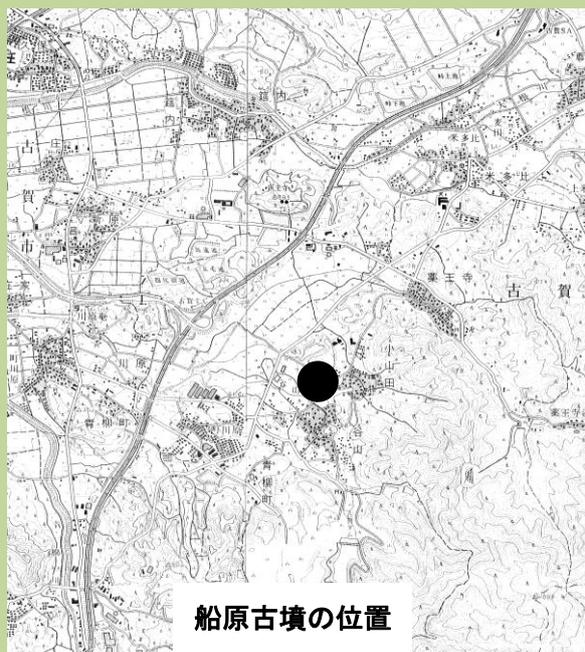
## 1. 船原古墳遺物埋納坑の発見

平成 25 年 3 月、古賀市谷山で大発見がありました。船原古墳遺物埋納坑<sup>いぶつまいのうこう</sup>の発見です。

ほ場整備事業に伴う、谷山北地区遺跡群の発掘調査中のことでした。市で保存している船原古墳群西側の水田の発掘調査中に、古墳時代の多量の遺物が納められた土坑<sup>どこう</sup>（何らかの用途・目的で人為的に掘った穴のこと）が見つかったのです。特に目をひいたのは金色に輝く金銅<sup>こんどう</sup>（金メッキした青銅）を用いた豪華な馬具類でした。6 世紀末から 7 世紀初め、古墳時代後期のものです。その他、数十本もの鉄の矢じりや、馬具のみが出土した土坑もみつき、船原古墳群の中でも船原古墳（3 号墳）に関連する遺構と考えています。

遺構の立地や遺物の性格から、考古学上重要な価値があると判断し、ほ場整備関係者や福岡県のご協力を得て、保存を行なうことになりました。

船原古墳遺物埋納坑は長さ約 5.3m、幅約 80cm から 2.4m、深さ約 80cm で、出土遺物は複数セットと見られる馬具、弓・矢、甲冑といった武器・武具、鉄製農工具などですが、特に馬具中に金銅を用いた豪華な品が多いこと、馬冑<sup>ばちゆう</sup>（馬用かぶと）や蛇行鉄器、金銅製歩揺付飾<sup>ほようつきかざり</sup>



船原古墳の位置



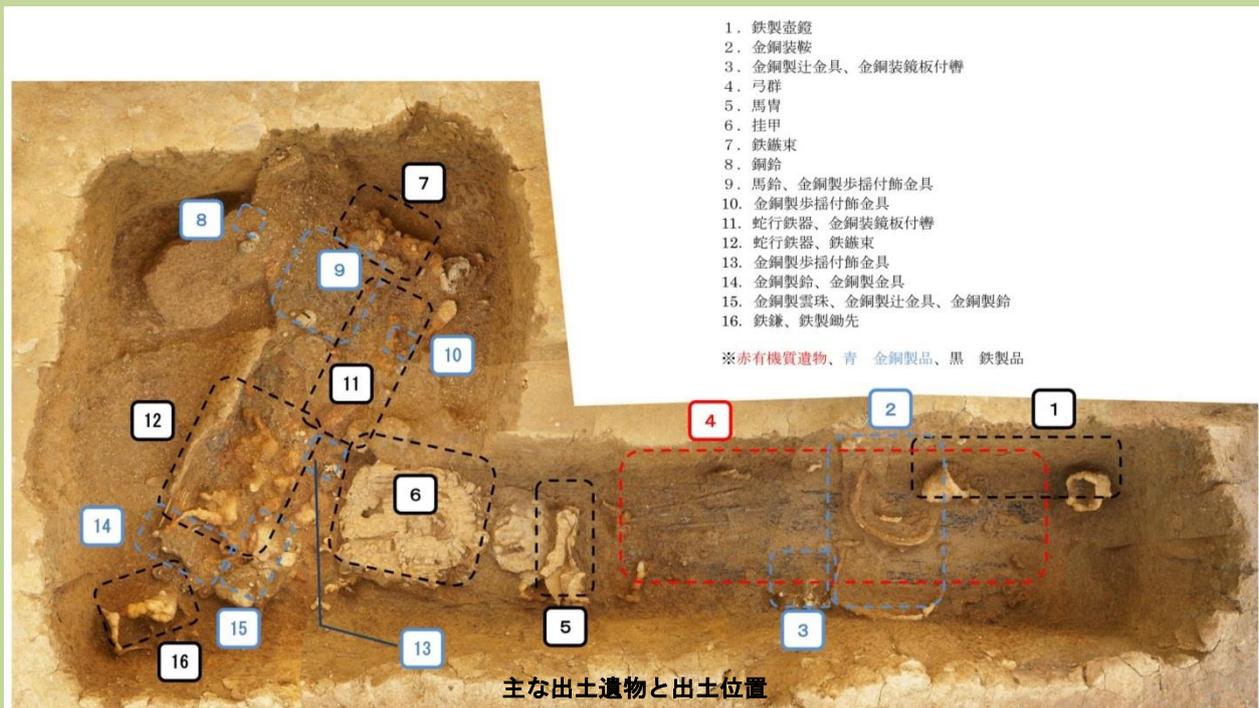
上空から見た船原古墳遺物埋納坑



船原古墳遺物埋納坑の全景

かなぐなど稀少品が含まれることなどから全国でも注目を集める発見となりました。

また、横穴式石室内部や墳丘上など、古墳の内部から遺物が出土するのは一般的ですが、古墳の外側からこのような遺物を納めた土坑が発見された例はなく、当時の死者を埋葬する際の儀礼の研究にも重要な資料となるものです。



## 2. 豪華な出土遺物は最高の学術資料

驚くのは納められていた遺物の多彩さ、豪華さです。主な出土品は鞍（金銅で飾ったきらびやかなもの）、鏡（鉄製、木製）、轡（草の葉をデザインしたもの、花形のものなど）、雲珠、辻金具（革ベルトの留め金具、金銅製、イモガイで装飾したもの）、歩揺付飾金具（雲珠）（金銅製、透かし入りの六角形の板上に、花びら形の飾りを吊り下げた大小の支柱7点を取り付けた、これまで出土例のないもの）、杏葉（革ベルトに下げる飾り）、鈴（銅製、金銅製、大小のもの）、馬冑（鉄製の馬用かぶと、国内3例目）、挂甲（小さな鉄板を綴じ合わせたよろい）、蛇行鉄器（幡を挿す器具、3点出土は全国最多）、弓（木製漆塗り飾り弓）、鉄織束（束になった鉄製の矢じり）、鉄製鎌、鉄製鋤先などです。総数200点以上あり、馬具を中心に武具や農工具も出土しました。

まず、金銅を用いてきらびやかに飾った馬具が多くあることが大きな特徴です。馬に乗れるのは一部の権力者層である上、馬具の大半は簡素な実用品で、持主の高い権威を表す壮麗に飾りを施した馬具は大変稀少な逸品です。更に、杏葉の内1組は2羽の鳳凰をデザインした製作に高度な技術を要するものですし、出土例の無い歩揺付飾金具も資料の学術的価値を更に高いものになっています。また、馬冑や蛇行鉄器も国内の出土例がほとんどない資料です。その他、漆塗りの飾り弓は十数本もあり、銀製の弭（弓の先端にある弦を引っ掛ける部品）や両頭金具（鉄製の飾り金具）が装着されたままの珍しいものでした。

これらの遺物は周囲の土ごと慎重に取り上げて保管しています。今後、遺物本体はもちろん、周囲の土の科学分析で、腐れて失われた木、革や布等の材質も明らかにしてゆきます。

奈良県の藤ノ木古墳などの国宝、重要文化財に肩を並べる重要な学術資料となるよう、今後保存処理や調査を行ってゆきます。



鞍(中央)と鐙(中央右上)の出土状況



金銅製辻金具と轡の出土状況



挂甲(左)と馬冑(右)の出土状況



蛇行鉄器の出土状況



CGによる金銅製飾り金具の復元(九州国立博物館提供)



金銅製飾り金具のCTスキャン画像



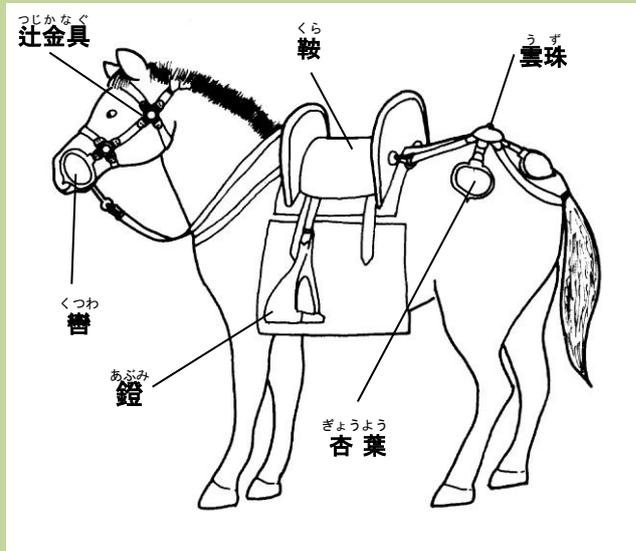
杏葉(鳳凰のデザイン)のCTスキャン画像

※CT画像の撮影は全て九州歴史資料館

### 馬具とはなにか

人間が馬を利用するようになって、約六千年たつそうです。中国で完成された馬具は、騎馬の風習とともに朝鮮半島の国々を通じ日本列島へ伝わります。5世紀頃のことです。当時の馬は主に戦争時の機動力、戦闘指揮者の移動手段として使用され、馬を使用できる人物は当時の一部の権力者層だけでした。特に豪華な装飾馬具の製作には当時の最高の工芸技術が駆使されています。

轡(くつわ)は馬の口にはめ手綱を取り付けるもの。馬をコントロールする重要な馬具です。鞍(くら)は騎乗者のための座席。鐙(あぶみ)は鞍から下げ足を乗せるための馬具。金具類のうち、革と革が交差する部分に取り付ける辻金具(つじかなぐ)や雲珠(うず)は装飾品でもあり、金銅や美しい貝殻で飾り、工芸品といっぴよいものもあります。その他、各部分から吊り下げるアクセサリーとして杏葉(ぎょうよう)や鈴などがあります。特に、杏葉は剣形、ハート形、鐘形など形や文様のバリエーションが豊富で、当時の工芸技術の高さを示しています。



主な馬具と装着のしかた

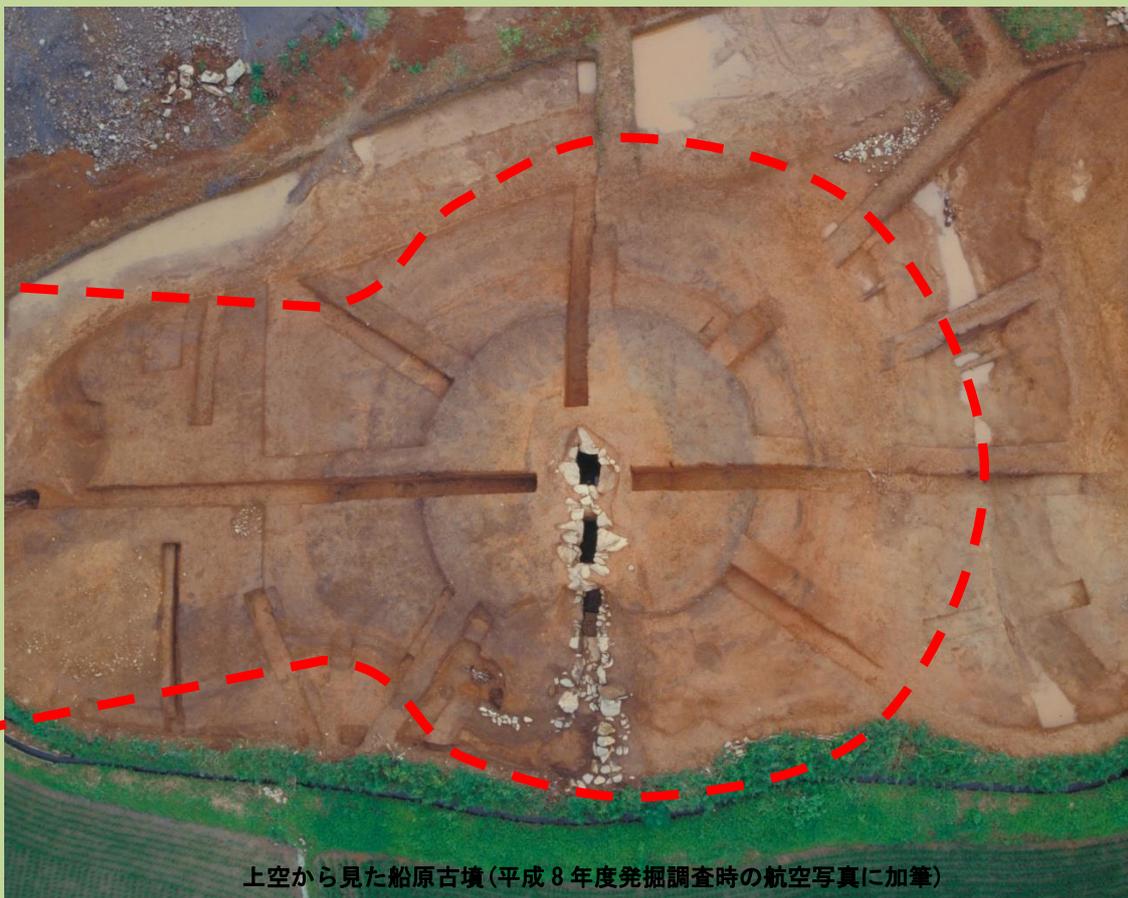
### 3. 船原古墳について

船原古墳は古賀市谷山と小山田の境に横たわる低丘陵上に築かれた6世紀末から7世紀初め頃の古墳です。平成8年に発掘調査を行い、古賀市でも最大級の古墳で、周辺の首長（豪族）の墓と考えられることから、貴重な文化財として市で保存を行ないました。

調査当時は径20mほどの円墳と考えていました。死者を葬った横穴式石室は巨石を利用した2つの石室を連ねた複室構造のもので、壁面には赤色顔料が塗られた珍しいものでした。残念ながら盗掘を受け副葬品はほとんど残っていませんでしたが、金銅製品が出土しており、この古墳の主の権力の大きさを物語っています。

ところが、平成26年度の発掘調査で新たな事実が判明しました。全長42m以上、後円部の径28mの前方後円墳であることが明らかになったのです。これは大きな発見でした。前方後円墳であるということは、古墳の主が中央の政権と直接な関係を持つ権力者であることを示すからです。

この古墳に葬られた人物の、詳細な姿はこれからの調査・研究で明らかにしてゆかねばなりません。人物像を探る鍵がひとつ明らかになったと言えるでしょう。



上空から見た船原古墳(平成8年度発掘調査時の航空写真に加筆)

#### 前方後円墳とは

ご存知のとおり、●と■(というより▲)をつなげた形の古墳です。鍵穴形と表現されるこの特殊な形の古墳は、まさに歴史の謎を解く鍵穴です。

大王、豪族といった当時の政治的中枢にあった人々の墓として採用されることが多く、その消長は当時の歴史の動きを捉えるのに不可欠であるからです。

## 4. 船原古墳遺物埋納坑の謎

### 第1の謎 数々の貴重な品はどうやって手に入れたものなのか

前半で説明したとおり、船原古墳遺物埋納坑に納められていた品々は、いずれも大変貴重なものばかりです。当時の国内の馬具生産は工人による手工業で、簡素な実用品はともかく、豪華な装飾馬具の製作は中央の政権が所有する工房など限定した場所で行なわれていません。また、国外から輸入するにしても、貿易で取り扱えるほど一般的な商品ではありません。中央の政権から下賜(褒美としてもらうこと)されたものか、直接外国から手に入れるなどが考えられますが、地方の小豪族に簡単に入手できるものではなさそうです。

### 第2の謎 なぜ古墳の外に埋納坑が作られたのか

これまで、国内で古墳の外側から大量の遺物が発見されたことはありませんでした。

本来ならば横穴式石室の中に副葬品として納められるべきものがなぜ外側の土坑に納められたのでしょうか。

### 第3の謎 船原古墳に葬られたのはどんな人物なのか

前方後円墳であることが判明したおかげで、この古墳の主が中央と政治的につながりを持った人物であることは判明しましたが、では、この人物は当時どういった役割を果たしていたのでしょうか。

**謎は深まるばかりですが、今後これらの謎の解明に全力で取り組んでゆきます。はたして、謎は解けるのでしょうか。ご期待ください。**

## 5. 謎に迫る最新技術

日々科学技術は進歩してゆきますが、近年、考古学の世界においても、最新の科学技術の導入が進み、古代の謎の解明に役立っています。船原古墳遺物埋納坑の調査においても、謎の解明に向けてあらゆる角度から調査を進めるよう努力しています。

今後、調査に利用する最新技術をご紹介します。

### ① 3次元レーザー測量

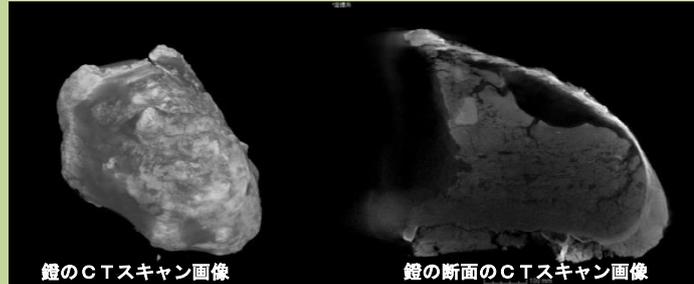
測量したいものにレーザー光線を当て、反射して返ってくるまでの時間を測ることによって立体的な形状を測定する技術です。1㎡当り100万点(1ミリ四方に1点くらいの割合)ものレーザー光線を当て、各点の位置を測定できるそうです。これまでの写真や図の作成と比べ、高い精度での記録が可能で、記録したデータをCG作成や、3Dプリンタによるレプリカ製作に利用できるのも利点です。



3Dレーザー計測データから復元した船原古墳遺物埋納坑

## ②CTスキャン

X線の透過率を測定して得たデータを、コンピュータで画像処理することによって内部の様子を記録することができます。立体的な記録も可能なので、CGや3Dプリンタを利用したレプリカ作成も可能です。内部の構造や断面、土や錆に覆われた遺物の形状をあらかじめ知ることができると、製作技術の解明、復元・保存処理の手順や方法を詳しく検討することができます。



## ③地下レーダー探査

航空機の運行や気象観測に用いられる技術ですが、地下に応用すると地下の地層構造や埋蔵物について調べることができます。地下を調べるのは発掘調査が最も確かな方法ですが、多くの時間と経費がかかる上、遺構や地層を破壊する恐れもあり、破壊することなく調査可能なこの方法は地下の遺構・遺物を保存したいときにとっても有効です。



## ④各種科学分析

### 花粉分析

植物の花粉を包む殻はとても丈夫で、環境によっては数千年もその形を保つそうです。種によって形が異なるため、花粉からどんな植物か特定することが可能です。遺構内の土に含まれる花粉を調べることで、当時の周囲の植物環境がわかり地理環境や季節、気候など、遺構が何のために利用されたかの手がかりになることもあります。



### 昆虫分析

昆虫は硬い外骨格に、一部の寄生虫の卵も丈夫な殻に包まれています。土の中には脚や羽など昆虫の体の一部や卵が残されていることがあります。これを調べることで、様々なことがわかります。遺構の用途や埋まった季節を探る手がかりになるかもしれません。

### 土壌分析

土壌に含まれる成分を分析します。例えばリン・カルシウムが周囲より多く検出されれば、動物の遺体が埋まっていた可能性が生じる（人間ならお墓）など遺構の目的を探るのに有効です。

### DNA分析

動植物遺体に含まれるDNAを分析することで、その種類や産地がわかります。遺物の材質や生産地を特定するのに役立ちます。

### 放射性炭素分析

遺物に含まれる放射性炭素であるC14を測定します。やや大まかではありますが、遺物が製作された年代を測定することができます。



### おわりに

このたびの船原古墳の発見は遠い過去からのすばらしい贈り物でした。

1300年以上の時を経て、現代によりがえった重要文化財クラスの至宝の数々。まさに奇跡的な発見でした。私たちは先祖から託されたこの古賀の宝を未来へ受け継いでゆかねばなりません。また、古代の謎を解くための重要な鍵として、古賀の歴史を解明していきたいと考えています。

出土品の保存処理や復元・分析には時間がかかりますが、全力を尽くしていきます。その成果にご期待ください

時を越えた宝箱  
船原古墳遺物埋納坑  
発行日 平成27年3月25日  
発行 古賀市教育委員会  
〒811-3113  
福岡県古賀市駅東1-1-1  
印刷 株式会社三光  
〒848-0022  
佐賀県伊万里市大坪町乙  
4161-1